

自己点検評価（工学部英語科目運営会議）

2023 年 9 月 19 日

1 学修・教育到達目標

【実施状況】

工学部の教育体系において、高度な専門科目を学ぶために必要な基礎力を養うための基礎・教養科目を構成する科目に言語科目（英語科目）があり、英語科目運営会議では、この英語科目の運営を担っている。英語科目はグローバルに活躍する技術者に必要な英語コミュニケーション能力を修得するための科目である。学生は英語科目を履修することにより、確かな基礎力の上に、将来的ニーズに即した英語力、工学研究や実務につながる応用力をつけ、英語で情報を収集し、発信するための知識や技能を修得する。

英語科目のカリキュラムは、工学部 9 学科の各学科における教育方針、カリキュラムポリシーにより設定された以下に示す学修・教育到達目標と連動し、技術者に求められる能力を身に付けた人材を育成するものとなっている。

<機械工学科>

C 他人と協力して物事を成し遂げる能力を身に付ける。

C-2 英語の基礎的なコミュニケーションスキルを活用して、情報交換を行うことができる。

<機械機能工学科>

C 他人と協力して物事を成し遂げる能力を身に付ける。

C-2 英語の基礎的なコミュニケーションスキルを活用して、情報交換を行うことができる。

<材料工学科>

I 技術者、研究者としての幅広い教養と社会性

I-b コミュニケーション語学、情報技術を修得し、国際化・情報化社会に対応できる情報収集・発信能力を獲得する。

<応用化学科>

C 常に自己研鑽を怠らず継続的な自己啓発を行う。

国際的に仕事をしていく準備として英語のコミュニケーションの基礎能力を養う。

<電気工学科>

F グローバルな社会に通用するコミュニケーション能力

F-2 国際コミュニケーションの基礎となる英語などで書かれた技術文書を理解し作成できる。

<情報通信工学科>

F コミュニケーション能力

F-2 : 国際コミュニケーションの基礎となる英語で書かれた文書などを理解し、作成することができる。

<電子工学科>

A 豊かな教養を持ち、幅広い視点から物事を考え理解する基礎的能力を身につける

<土木工学科>

I 論理的な技術文章の作成能力、プレゼンテーションやディスカッションなどのコミュニケーション能力および英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける。

<情報工学科>

F 技術者としてのコミュニケーション能力

F-2 英語による基礎的なコミュニケーション能力

2019 年度よりカリキュラムを改定し、各学科において 1 年次の必修科目として「Reading & Writing I」(前期)、「Listening & Speaking I」(後期)を開講しており、基礎力の養成が必要とされる学生から、基礎力を保持して入学したと判断された学生まで、レベル別に分けた授業を実施している。全新入生がプレースメントテストとして TOEIC IP テストを受験し、そのスコアをもとにレベル別のクラス分けを行っている。2021 年度はコロナ禍のためプレースメントテストを実施することができなかった。そのため、入学者選抜における点数や英語検定試験についての提出書類を英語力の判断材料としてレベル別クラス分けを行ったが、2022 年度から通常通り TOEIC IP テストのスコアをもとにクラス分けを行っている。

必修科目、選択必修科目として「Reading & Writing I」、「Listening & Speaking I」、「工学英語 I/II」、「TOEIC I」を開講し、より高い英語力の学生を対象としている「Reading & Writing II」、「Listening & Speaking II」、「TOEIC II」の 3 科目は TOEIC 500 点前後の英語力を受講目安としてシラバスに明記している。また「Reading & Writing II」については、累積 GPA の平均が 2.0 以上であることが必要であるという条件を新たに設けている。専攻する分野で必要となる英語力向上のため、専門科目より要望が多かった工学英語科目のコマ数を多く用意している。

現状のカリキュラムでは、1, 2 年次で一般的なコンテキストでの Reading と Writing 力および Listening と Speaking 力の養成を図っている。これらは専門学群ごとに時間割を編成している。工学系コンテキストでの一般的な英語力を養う科目としては、「工学英語 I」「工学英語 II」があり、主に 2 年次以上を対象とした科目である。

さらに、学生の専門科目における英語ニーズに対応すべく、3 年次以上を対象とした専門科目または基礎教養科目としての英語科目を以下のように開講している。

機械工学科 3 年次専門科目「工学英語 III」(2021 年度より開講)

機械機能工学科 3 年次専門科目「工学英語 III」(2021 年度より開講)

材料工学科 3 年次基礎教養科目「工業技術者英語」(2021 年度より開講)

応用化学科 3 年次基礎教養科目「ビジネス英語」(2021 年度より開講)

情報通信工学科 3 年次専門科目「情報通信技術英語」(2019 年度より開講)

情報工学科 3 年次専門科目「情報通信技術英語」(2019 年度より開講)

また、「スーパーグローバル大学創成支援事業」で目標とする学生の英語力 (TOEIC スコア 550 点以上) やグローバルコミュニケーション力 (CEFR B1 以上) を達成するため、学生課・学術情報セン

ターの協力を得て、正課必修授業科目「Listening & Speaking I」および正課授業「TOEIC I」、「TOEIC II」に TOEIC IP テストのスコアを最終成績に組み込んでいる。2023 年度から、更なる英語力向上のため必修科目の「Reading & Writing I」（前期）でも、評価の一部（20％）に学期末に行う TOEIC IP テストを用いることとした。

【点検評価】

現状のカリキュラムは 2019 年度から実施している。各学科の学修・教育到達目標で共通に掲げているグローバルな人材育成に必要なコミュニケーション能力の育成については、1, 2 年次で一般的なコンテキストでの英語力の養成を主に行い、2 年次以降に工学コンテキストでの技術者に必要な英語コミュニケーション能力の養成を行っている。また、3 年次各専門学科で開講している英語科目によって、各学科のニーズに基づく英語力の養成を行っている。卒業に必要な条件として、英語科目の単位数は以下のようにっており、この必要単位数を取得できるカリキュラムを提供できている。

機械工学科 10 単位

機械機能工学科 10 単位

材料工学科 10 単位

応用科学科 10 単位

電気工学科 10 単位

電子工学科 8 単位

情報通信工学科 6 単位

情報工学科 10 単位

土木工学科 10 単位

コロナ禍以降、2022 年度は対面授業となり、コロナ感染者や濃厚接触者には自宅からオンライン受講などの措置も取り入れながら無事に前期を終了した。2023 年 5 月から新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことにともない、感染者に対しては教員がオンラインやオンデマンド等の柔軟な措置を取り入れながら授業を進めることができた。

2 教員

【実施状況】

工学部英語科目運営会議の専任教員は、2022 年度に 1 名（教授）が退職し、2023 年度は新しい教員 1 名（准教授）を迎え、5 名（教授 3 名、准教授 2 名）で構成されている。理工学での博士号取得者が 3 名、言語学での博士号取得者が 2 名であり、そのうちの 4 名は大学院レベルで英語教育を専攻している。非常勤教員に関して、2022 年度は 23 名であった。退職者が複数名いたことから 2023 年度は新たに 4 名を加え 24 名となった。非常勤教員全てが、英語教育学、教育学、言語学、情報学もしくは英文学で博士号もしくは修士号を取得している。また、全員が日本の大学レベルで 1 年以上の教授経験がある。非常勤講師の採用は公募を行い、教育研究業績を精査するとともに面接を行った上で候補者を決定し、資格審査委員会で承認を得ている。加えて、次年度の授業担当を依頼する際に、教育において工夫した

点について記述箇所を設け、能力や資質を評価している。

科目運営会議構成員は 2019 年度より各学科に所属し、各学科と連携している。2022 年度および 2023 年度は、機械機能工学科、応用化学科、電子工学科、情報通信工学科、土木工学科に 1 名ずつ所属し、各学群の英語教育を担当している。学群ごとに必修科目の時間割編成をしており、各学群を担当する専任教員が 1 クラス以上担当している。

また、上記で示した、3 年次以上を対象とした専門科目または基礎教養科目としての英語科目を科目運営会議の専任教員が担当している。

【点検評価】

英語授業のカリキュラム、内容、および、授業担当については、専任教員の経歴および業績から構成しているが、2022 年度および 2023 年度は大学院で授業を担当する専任教員は 2 名である。2022 年度及び 2023 年度には博士号を持ち、大学院授業を担当できる専任教員を 1 名ずつ採用した。

運営会議構成員が学科・学群の専門分野での英語教育を担当することにより、運営会議構成員も学科・学群の専門分野への理解を深めることができている。同時に専門授業担当教員も英語教育について理解が深まり、相互の連携体制の強化が実現できつつある。

3 教育プログラム

【実施状況】

英語科目はすべて 2 単位であり、Reading & Writing 科目、Listening & Speaking 科目、工学英語科目、TOEIC 科目を開講している。

必修科目である「Reading & Writing I」および「Listening & Speaking I」により基礎的な 4 技能を習得することを目的としている。必修科目で習得した基礎的な 4 技能をさらに応用させることを目的とした「Reading & Writing II」および「Listening & Speaking II」を開講している。この二科目については、2 年次以上を対象とし、より英語力の高い学生のための科目のため、履修するには、TOEIC500 点前後の英語力があることが望ましいとしている。また「Reading & Writing II」については、累積 GPA の平均が 2.0 以上であることが必要であるという条件を新たに設けた。

理工系の英語の基礎的語彙・表現などを学ぶ「工学英語 I」および「工学英語 II」を開講し、専攻する分野で必要となる英語の読解力および表現力の基礎を養うことを目的としている。

さらに、理工系の企業の採用や昇進・昇格にも使われている TOEIC のスコアを伸ばすことを目的とする「TOEIC I」および「TOEIC II」を開講し、上位科目である「TOEIC II」は TOEIC500 点前後以上の英語力があることが望ましいとしている。

英語科目の授業は一クラス 40 名以下とし、教員と学生間、および、学生間でのインタラクションを多く取り入れる工夫を行い、アクティブラーニングを積極的に取り入れた授業を行っている。また、公正な評価、授業の質保証のため、シラバスを統一しており、必修科目では定期試験の 40%に統一問題を使用している。

学生の自主的な学修促進に関しては、大学が提供する短期語学研修プログラムや TOEIC IP テストの受験の推奨を授業内で行っている。学内で行われる TOEIC IP テストの任意受験や春・夏の海外短期語

学研修プログラムについて英語授業全クラスで授業担当者がチラシを配布し、アナウンスして推奨していることで、参加学生が増加している。授業内での周知以外にも、ScombZ で科目ごとの Community を作成し、受験必須対象者、推奨対象者への受験を促すアナウンスをした。2022 年度から TOEIC IP テストを学内で対面で実施している。

また、学習サポートにおいては、英語学習サポート室に月曜日 5 限、火曜日～金曜日の 4,5 時限に各曜日英語教員 1 名が、正課授業や一般的な英語学習、TOEFL や IELTS 受験に関する相談に応じている。2022 年度から、教員は大宮キャンパスの学習サポート室からオンライン配信を行っている。英語科目運営会議構成員の専任教員のうち 1 名を学習サポート室担当とし、学習サポート室の運営を統括している。必修科目のサポートとして、毎回ミニ講座を開催して、不得意学生のサポートに力を入れており、google form を用いて毎回学習サポート室指導記録をつけている。

専任教員全てがオフィスアワーを設定しているほか、非常勤講師も含めて全教員が授業前後に学生からの質問に応じている。また、必修科目において、スーパー英語や教科書の e-learning 教材を紹介し、学生の自己学習に役立てている。

【点検評価】

英語教員を含む共通系教員が 2019 年より専門学科に分属した。それ以前は英語科目の専任の学部英語授業の担当コマ数は半期で 6 コマとしていたが、分属後は卒業研究担当や専門学科の教育に基礎・教養系教員も積極的に関わることが求められ、さらに、大学院の授業担当を行い、修士課程の学生指導も行う教員も増えてきた。そこで、英語カリキュラムの運営や問題作成なども含む入試業務にあたるための時間の確保も必要なため、2020 年度より、前述の卒研指導や学科独自開講の英語科目の指導に要する時間を考慮して、基礎教養系英語科目の持ちコマ数を決めていくこととした。

2023 年度前期の非常勤の授業担当割合は 75%、後期は 74% となり、上に述べた通り専門学科の教育への関わりも増えており以前として非常勤講師への依存率が高い。

オフィスアワーに質問や相談を受ける他、学習サポート室で学修支援を行っており、学生支援は十分に行われている。学習サポート室では、必修科目の復習や質疑応答を行っているため、学生の利用率は高い。さらに授業内で利用を呼びかけ、特に英語に苦手意識のある学生に利用を勧めたい。